

研修医、看護師、救急救命士、救急隊員のための

心電図マスターアプリ

～モニター心電図の学習を徹底サポート～

ユーザー講習会 速報レポート

初のユーザー講習会を開催！

近代消防社は8月19日、「心電図マスターアプリ」(以下、アプリ)の発売(5月27日)を記念し、初のユーザー講習会を東京・港区の日本消防会館C会議室で開催しました。本講習会は、アプリのユーザーを対象に、活用方法を実践的に学んでいただくことを目的として企画されたものです。

当日は全国から約20名のユーザーが参加し、実践的な演習を通じて心電図判読スキルの向上を目指しました。

モニター心電図を定義で読む！

講師を務めたのは、本アプリの編著者であり、Support Book研究会代表の大河原治平氏。救急救命士としての豊富な経験をもとに、心電図の基本的な読み方や、アプリを活用した効果的な学習方法を紹介し、参加者は熱心にメモを取りながら耳を傾けていました。

講義パートでは、モニター心電図と12誘導心電図の目的の違い、不整脈や心停止、心静止といった用語の定義から始まり、「なぜ心電図が読めるようにならないのか?」という課題について解説が行われました。さらに、基本調律や期外収縮に対応した判読フローチャート(製品版アプリで閲覧可能)が紹介され、波形の定義に基づいた具体的な判読手法が提示されました。

演習パートでは、実際の心電図波形を用いて、電気ショックの適応可否や基本調律、期外収縮を判断するトレーニングを実施。アプリ操作と連動した実践的な内容により、短時間で理解度を高められる構成となっていました。



喜びの声が続々！

参加者からは次のような感想が寄せられました。

- ・「苦手意識があった心電図も、アプリで練習すると理解が進みやすい」
- ・「わかってくると、どんどん楽しくなる」
- ・「現場でも自信を持って活用できそう」
- ・「形で覚えるのは間違いだと知りました」
- ・「心電図について、もっと知りたくなりました」

こうした声からも、今回の講習会が参加者にとって満足度の高いものであったことがうかがえます。

今回の講習会で、受講生が楽しそうに学習し、判読力がメキメキ上がっていくところを目のあたりにしました。アプリ+講習会で、短期間に判読をマスターできます。今後も定期的な講習会やフォローアップ企画を予定しており、ユーザーの学習支援がさらに充実していきます。

